

令和元年度

事務事業点検評価結果報告書
(令和元年度実施事業)

令和2年5月

中津川市教育委員会

はじめに

平成27年度に中津川市教育委員会は「中津川市教育大綱」を策定し、リニア時代を生きぬく市民像として「学び、活かす市民」をスローガンに掲げました。今般の社会情勢は急激な変化・多様化を遂げ刻々と進行しており、子どもも大人もこうした現代社会に適応できる力が継続して必要になります。

教育大綱の実現に向けた施策を計画的に進める指針として策定した「中津川市教育振興基本計画」は、令和元年度に中期期間（4年）がスタートしました。

教育委員会は「子どもたちのよりよいひとりだち」のため、子どもたちの「生きぬく力」を育てることを基本方針に、乳幼児期から高等学校卒業までの「育ち」に関与する重大な責務を担っています。また、文化・スポーツ面においても、よりよい自己と地域づくり達成のため、大人自身が学び活かすことのできる環境・事業を展開しています。子どもたちが未来の中津川市のまちづくり人へと成長していくには、学校、家庭と地域それぞれの連携が欠かせません。

この事務事業の点検評価は、子どもたちへの教育の更なる充実を目指し、生涯学習・文化スポーツ活動と一体になった施策を組み立て、実現していく重要性を再確認する取り組みの一つに位置付けられます。

今回、令和元年度に教育委員会事務局および文化スポーツ部で実施した4つの主要事業について、5名の教育評価委員による慎重な審議の結果、後述した評価を賜り、この結果を踏まえ教育委員会において最終評価を実施しました。次年度以降の教育目標、基本方針の策定やその他の事務事業の改善等に活かしていきます。

今後とも、市議会をはじめ、市民の皆様のご厚誼ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和2年5月
中津川市教育委員会

1 事務事業点検評価について

(1) 教育委員会点検評価制度の導入経緯

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律の一部を改正する法律」が、平成19年6月に公布され、新たに法第26条に「教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等」が規定されました。

この規定により、平成20年4月1日から、すべての教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられました。また、点検及び評価を行うにあたっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図ることとされました。

(2) 教育に関する事務の管理、執行状況の点検及び評価の実施方針

中津川市教育委員会では、法の一部改正を受けて、次のような方針にもとづき、点検及び評価を実施することとしました。

点検評価の実施方法

① 評価対象事業

中津川市教育委員会が令和元年度に実施した、会議・調査活動及び事務事業の中から主要なものを抽出し重点的に評価を実施します。

《令和元年度評価対象事業》

シート番号	事業名	課名
1	中津川市の未来を担う人材育成事業	学校教育課
2	保育士等確保対策事業	幼児教育課
3	苗木城跡整備事業	文化振興課
4	子ども科学館事業	鉱物博物館

② 一次評価

教育委員会事務局において評価対象事業の自己評価を実施します。

③ 委員会評価

中津川市教育評価委員会において評価対象事業について意見をいただきます。

④ 最終評価

教育委員会が、一次評価及び委員会評価の結果をふまえ最終評価を実施し報告書を取りまとめ、議会へ提出するとともに公表を行います。

⑤評価結果の活用

教育委員会は、点検及び評価の結果を、次年度以降の教育目標や基本方針等の策定、その他事務事業の改善等に活用します。

教育評価委員会

①教育評価委員会の設置

中津川市教育委員会点検評価実施要領の規定に基づき、5名による教育評価委員会を設置します。教育評価委員の任期は1年です。

②教育評価委員会の構成

役職名	氏名	公職等
委員	須栗大	第2期中津川市中心市街地活性化基本計画事業委員（大学教授）
委員	朝日美智子	地域ミニコミ誌編集長
委員	田口勝幸	中津川市校長会代表
委員	大山安彦	中津川市PTA連合会長
委員	三尾大司	中津川市保育園保護者会連合会長

点検評価の評定基準

①一次評価

評価対象事業について成果、反省点、課題、問題点、改善点等の観点から評価を行います。

②委員会評価

評価委員会を開催し、①の結果をふまえ、対象事業について審議し意見をいただき、それをもって委員会評価とします。

③最終評価

①と②の結果をふまえ、下記により方向性を示したうえで評価を行います。

方向性の判断	
継続	廃止

2 令和元年度教育委員会の活動状況

(1) 教育委員会会議の開催状況

平成31年4月～令和元12月 ※教育委員会会議の議案番号は、暦年で番号を付与しています。

付議委員会	議案番号	提案・議決年月日 及び審査結果	件名
第6回	報第1号	平成31年4月24日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	議第11号	平成31年4月24日 同日 原案承認	平成31年度岐阜県教科用図書東濃採択地区協議会の設置等について
	議第12号	平成31年4月24日 同日 原案承認	中津川市教育委員会附属機関の委員の委嘱等について
	議第13号	平成31年4月24日 同日 原案承認	中津川市スポーツ推進委員の委嘱について
	議第14号	平成31年4月24日 同日 原案承認	中津川市教育振興基本計画の承認について
第7回	議第15号	令和元年5月27日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
	議第16号	令和元年5月27日 同日 原案承認	中津川市教育委員会附属機関の委員の委嘱等について
	議第17号	令和元年5月27日 同日 原案承認	中津川市教育支援委員会委員の委嘱等について
	議第18号	令和元年5月27日 同日 原案承認	中津川市B&G海洋センター運営協議会委員の委嘱等について
	議第19号	令和元年5月27日 同日 原案承認	平成30年度中津川市教育委員会の事務事業点検評価報告書について
	議第20号	令和元年5月27日 同日 原案承認	令和元年度中津川市選奨生の決定について
第8回	議第21号	令和元年6月26日 同日 原案承認	中津川市教育委員会附属機関の委員の委嘱等について
	議第22号	令和元年6月26日 同日 原案承認	令和2年度使用中津川市立阿木高等学校教科用図書の採択について
	議第23号	令和元年6月26日 同日 原案承認	令和2年度中津川市立阿木高等学校の入学定員について
第9回	議第24号	令和元年7月17日 同日 原案承認	令和2年度に使用する小学校及び中学校教科用図書の採択について
第10回	報第2号	令和元年8月26日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
	議第25号	令和元年8月26日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
第11回	報第3号	令和元年9月27日 同日 原案承認	専決処分の承認を求めることについて
第12回	議第26号	令和元年10月16日 同日 原案承認	中津川市奨学資金貸与条例施行規則の一部改正について
	議第27号	令和元年10月16日 同日 原案承認	中津川市教育委員会公印規則の一部改正について
	議第28号	令和元年10月16日 同日 原案承認	中津川市教育委員会表彰規程の一部改正について
	議第29号	令和元年10月16日 同日 原案承認	中津川市教育委員会事務専決規程の一部改正について
第13回	報第4号	令和元年11月20日 同日 原案承認	中津川市教育支援委員会の結果報告について

第13回	議第30号	令和元年 11月20日 同日 原案承認	中津川市中津川文化会館の設置等に関する条例施行規則の一部改正について
	議第31号	令和元年 11月20日 同日 原案承認	中津川市アートピア付知交芸プラザの設置等に関する条例施行規則の一部改正について
	議第32号	令和元年 11月20日 同日 原案承認	中津川市福岡ふれあい文化センターの設置等に関する条例施行規則の一部改正について
	議第33号	令和元年 11月20日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
第14回	議第34号	令和元年 12月18日 同日 原案承認	令和2年度中津川市教職員の定期人事異動方針について
	議第35号	令和元年 12月18日 同日 原案承認	中津川市立小学校及び中学校の就学区域を定める規則の一部改正について
	議第36号	令和元年 12月18日 同日 原案承認	中津川市立小学校及び中学校の就学区域を定める規則の一部改正について
	議第37号	令和元年 12月18日 同日 原案承認	中津川市立学校職員ストレスチェック実施規程の制定について

令和2年1月～3月

付議委員会	議案番号	提案・議決年月日 及び審査結果	件名
第1回	議第1号	令和2年1月22日 同日 原案承認	令和2年度中津川市教育委員会主要事業について
	議第2号	令和2年1月22日 同日 原案承認	中津川市スクールバスの管理及び運営に関する規則の一部改正について
	議第3号	令和2年1月22日 同日 原案承認	中津川市立小中学校管理規則の一部改正について
	議第4号	令和2年1月22日 同日 原案承認	中津川市教育委員会の附属機関の委員の委嘱について
第2回	議第5号	令和2年2月20日 同日 原案承認	中津川市スポーツ施設の設置等に関する条例施行規則の一部改正について
	議第6号	令和2年2月20日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について
	議第7号	令和2年2月20日 同日 原案承認	美術品等の購入に伴う諮問について
第3回	議第8号	令和2年3月4日 同日 原案承認	令和2年度県費負担教職員の任免等の内申について
	議第9号	令和2年3月4日 同日 原案承認	中津川市立幼稚園管理規則の一部改正について
	議第10号	令和2年3月4日 同日 原案承認	中津川市立小中学校管理規則の一部改正について
	議第11号	令和2年3月4日 同日 原案承認	中津川市立高等学校管理規則の一部改正について
	議第12号	令和2年3月4日 同日 原案承認	令和2年度中津川市教育委員会の方針と重点について
臨時 第4回	議第13号	令和2年3月26日 同日 原案承認	令和2年度市費負担職員の任免について
	議第14号	令和2年3月26日 同日 原案承認	中津川市スポーツ推進委員の委嘱について
	議第15号	令和2年3月26日 同日 原案承認	中津川市議会（定例会）に提出する議案の意見について

(2) 移動教育委員会の開催状況

移動教育委員会を開催し、教育委員と保護者が意見を交換することで、教育現場に保護者の意見を反映させます。

、令和元年度は、テーマを掲げグループにわかれて意見交換をしました。

懇談のテーマ：学び、活かす市民 ー家庭教育で大切にしたいことー

地区等	実施日
第一中学校区・苗木地区	令和元年 5 月 14 日
坂本・阿木地区	令和元年 5 月 30 日
第二中学校区・落合・神坂地区	令和元年 6 月 13 日
山口・坂下・川上地区	令和元年 7 月 10 日
加子母・付知地区	令和元年 7 月 25 日
福岡・蛭川地区	令和元年 10 月 8 日
発達支援センターどんぐり	令和元年 11 月 5 日
発達支援センターつくしんぼ	令和元年 11 月 7 日

(3) 総合教育会議の開催状況

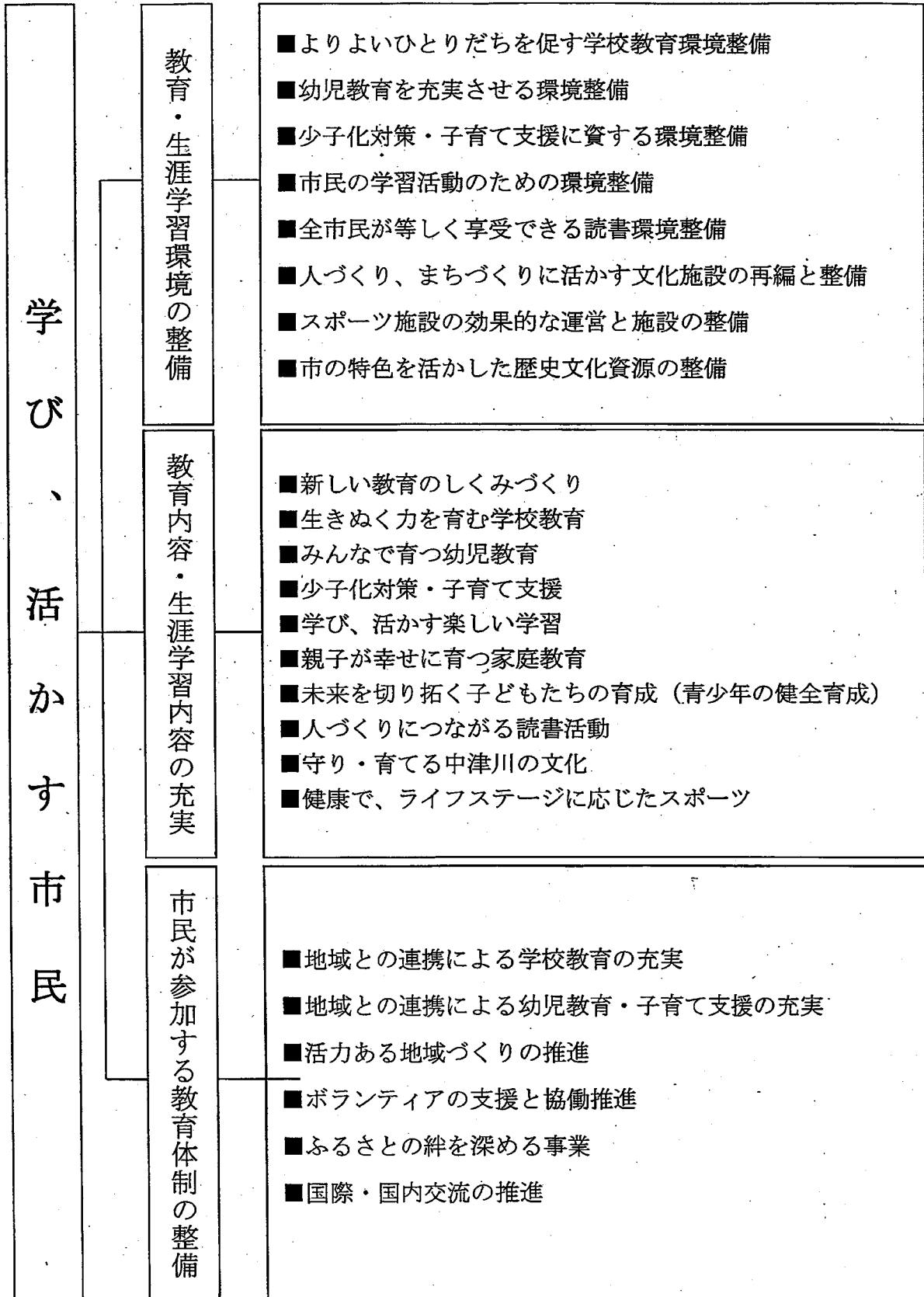
市長と、教育委員会で構成され、教育行政の大綱の策定、教育条件の整備等重点的に講ずべき施策、児童・生徒等の生命・身体の保護等緊急の場合に講ずべき措置について、協議・調整を行います。

実施日	報告内容
令和元年 12 月 13 日	1 学校規模等適正化について
	2 学校配置の指導助手等の確保について
	3 市民とともに守り育てる文化活動とその拠点について
	協議内容
	1 ICT教育の推進について

(4) その他の活動状況

市長との懇談会、教育委員会協議会、学校や園への授業参観、各種委員会、卒業式などに参加しました。

3 中津川市教育振興基本計画の施策体系図



事業名	中津川市の未来を担う人材育成事業	担当課	学校教育課
-----	------------------	-----	-------

概要説明

この事業は

- ・命の尊さを学ぶ「命の教育」や、関係団体との共催により学校間の児童生徒の交流を図る「生徒会サミット」を開催し、児童生徒に広く学ぶ機会、交流する機会を提供します。
- ・中津川市名誉市民の末松安晴氏を実行委員長に、1993年からスタートした事業である。今年度で25回目を迎えた。その分野で著名な講師陣から、最先端科学を学ぶ機会を提供し、科学への興味関心を高めるとともに未来を担う青少年の育成のため、岐阜サマー・サイエンス・スクールinなかつがわを実施する。
- ・「すご技プロジェクト」により、将来の中津川市の人材の地元定着、進路選択、働くことの意義を理解し、自ら主体的に判断してキャリア形成をしていく力を高めます。

を目的とし

①【命の教育推進事業】

- ・実行委員会開催、研究授業を実施 対象：全幼保園、小中学校（年1回）
- ・獣医師による命の教育 対象：全小学校及び一部の園（年1回）
- ・助産師による思春期教室 対象：全中学校（年1回）

②【生徒会サミット事業】

- ・中津川ライオンズクラブと共催して実行委員会、意見交流会の開催
- ・対象：全中学校生徒会

③【岐阜サマー・サイエンス・スクール事業への負担】

- ・科学へ興味関心を高め、未来を担う青少年育成のためサマー・サイエンス・スクールへの負担金として支払い。370万円
- ・県内および全国の中学生60名（1，2年生を中心）を対象に、主会場を馬籠ふるさと学校で、令和年7月30日（火）～8月2日（金）の3泊4日で行う。

（講師の先生方）滝 久雄先生（株式会社ぐるなび 取締役会長・創業者）

末松安晴先生 軽部征夫先生 杉山 直先生 末松良一先生

渡辺正裕先生 山田 誠先生 藤原 卓先生 山内健治先生

浅田雅洋先生

（4日間の主な内容）

30日 開校式、特別講義 滝 久雄先生

31日 講義1 末松良一先生、講義2 杉山 直先生、科学屋台村

1日 選択実習、講義3 末松安晴先生、からくりロボット展

2日 講義4 軽部征夫先生、閉校式

(会場)

主会場 馬籠ふるさと学校 期間中貸し切り

閉校式 健康福社会館 4階大ホール

閉校式 東美濃ふれあいセンター 歌舞伎ホール

④【すご技なかつがわプロジェクト事業】

- ・市内協力企業へ依頼と受け入れ人数の把握
- ・市内小中学校と企業間の調整、詳細決定、報道依頼、指導プランの送付
- ・企業までのバス配送、すご技プロジェクトの授業開催、見学後のアンケート実施、参加した子どもの感想を企業へ届ける。
- ・参加学校から実施報告書の提出、協力企業にステッカーを渡す。

計画で進めました。

令和元年度は

①【命の教育推進事業】

【できたこと】

全小中学校で実施。複数の学年で獣医師による授業を実施。3学年全てで実施する中学校もあった。

②【生徒会サミット事業】

【できたこと】

参加生徒の希望を取り入れたテーマを設定して、参加生徒の満足度を向上させることができた。

【できなかったこと】参加者全員に満足感を与えることができなかったこと。

③【岐阜サマーサイエンススクール事業への負担】

【できたこと】

参加者67名 中津川市内51名(男子31名、女子20名)

中津川市外16名(男子14名、女子2名)

参加者の満足度 良かった 93% まあ良かった 7%

少し不満足 0% 不満足 0%

決算概要 募集要項・ポスター作成費 講義ノート作成費 施設費
講師関係費

④【すご技なかつがわプロジェクト事業】

【できたこと】

児童・生徒を対象に市内協力企業14社で実施

9月25日(水)～12月9日(月)で実施

市内全小学校19校5年生で実施

市内小学校8校6年生でモデル実施

市内中学校3校1年生でモデル実施

バス代：1,345,500円
保険料：99,258円
リーフレット代：194,876円
中津川市新規採用教諭を対象に市内協力企業4社で実施
1月21日（火）に実施
バス代：77,000円

という結果になりました。

一次評価（担当者による自己評価）

◆良かったこと（成果）

- ①【命の教育推進事業】・全幼保小中学校で実施できたこと。
- ②【生徒会サミット事業】・参加生徒の満足度90.6%（前年比+10.6%）
- ③【岐阜サマー・サイエンス・スクール事業への負担】
・60人の定員に対して67名の応募があり、「良かった」「まあ良かった」で100%と非常に高い満足度であった。
- ④【すご技なかつがわプロジェクト事業】
・事前・事後の学習を含めた本事業を通して、児童・生徒が働くことの意義に対する理解を深めたこと。
→事後の児童・生徒の感想から（12月実施）
・事前・事後の学習を含めた本事業を通して、中津川市で働いてみたいと考える児童・生徒が増えたこと。
→事前・事後のアンケート結果の変容から（12月集計実施）

◆課題・問題

- ①【命の教育推進事業】
・「命の教育に対する使命感・重要視している・あの事件をもう二度という思いなどを数値にするとどのくらいか」という問いに対して、命の教育を推進する研究会参加者自身の意識は（最高値を100として）80であった。
それに対して、「自校職員の思い」については、64という回答であった。命の教育に携わるものの意識改革が必要。
- ②【生徒会サミット事業】
・2会場利用による時間的な制限の中で、生徒の活動時間を十分に確保できなかったこと。
- ③【岐阜サマー・サイエンス・スクール事業への負担】
・健康福祉会館のエアコンの不具合で非常に暑い中での講演となってしまった。
・4日間を運営するスタッフの確保が難しく、個々の負担が大きくなってしまった。
- ④【すご技なかつがわプロジェクト事業】
・実施回数が増えたことで、企業側の負担が増えたこと。

◆今後どうしたいか

- ①【命の教育推進事業】
・各校の命の教育担当者を通じて、「命の教育」に対する全ての職員の意識や学校の雰囲気向上させたい。

②【生徒会サミット事業】

- ・会場を2会場利用から、1会場利用に変更し、生徒の活動時間を十分に確保する。

③【岐阜サマー・サイエンス・スクール事業への負担】

- ・開校式から閉校式までをふるさと学校で行う。
- ・4日間の運営スタッフの負担が大きいことから、コマ数はそのままに、講義の時間を短縮するなどして、2泊3日の日程で行うことでスタッフの負担を軽減する。

④【すご技なかつがわプロジェクト事業】

- ・児童・生徒への定着をより確かなものとするために、実施回数を増やしていくこと。
市内全小学校18校5年生で実施
市内全小学校18校6年生で実施
市内全中学校12校1年生で実施
- ・企業側の負担が大きくならないよう、協力企業の数を増やしていくこと。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

①【命の教育推進事業】

- ・外部機関や他市との連携などを行いつつ、常に最新の情報を取り入れて全幼保小中学校で実施している点

②【生徒会サミット事業】

- ・参加した生徒の満足度が高く、ここで得た成果を各学校の活動に生かそうとしているところ。

③【岐阜サマー・サイエンス・スクール事業への負担】

- ・これだけの講師陣が一堂に会して行われるサイエンス・スクールは全国でも中津川だけである。

④【すご技なかつがわプロジェクト事業】

- ・将来の中津川市の人材の地元定着につながる取り組みであること。

評価委員会審議内容

◆事業についての質問

- ▶ 岐阜サマー・サイエンス・スクール（以下、GSSS）は、非常に高度な知識を得るすばらしいチャンスだと思う。参加者を募る際、なにかピーアールしているのか。
- ・市内・東濃のすべての中学校に、ポスターや要項を送付している。県外は過去に参加実績のある学校へ送付している。また、ラジオ・新聞などのメディアを通して募集している。
- ▶ GSSSでは、もっと多くの生徒に講義を聞かせたり、体験させる方向性はないのか。
- ・会場のキャパが60人のため、今後も基本的に定員は60人でやっていく。
- ▶ GSSSに参加した生徒の発表の場はあるのか。
- ・発表の場はないが、毎日、子ども達が書いた講義の感想を通信という形で配布している。
- ▶ GSSSの通信を学校へ持ち帰り、なにかすることはあるのか。
- ・そういうことはない。

- ▶ GSSSSも25年目となり、参加者は大人になっていると思うが、その中に理系の研究者がいるようなことはあるか。
 - ・15年目かの節目の調査では、理系の高校・大学へ進学する比率が高く、医師・理系大学の研究者になっている方が多くいた。現状、大学の講師もいる。ここ2、3年、そういったOBと生徒たちがネットを通じて質疑応答し、交流を図っている。
- ▶ GSSSSの開催日数を一日減らした一番の動機は、スタッフの負担軽減か。
 - ・この事業に関わっている延べ百何十人のスタッフを軽減できる。また、宿泊や食事代など費用的負担を減らせば、参加しやすくなる。講義時間の短縮はあるが、講義数は減らさず、ほぼ4日分を3日で済ます形にする。
- ▶ GSSSSの参加費を下げてもっと多くの生徒に来てもらっても、キャパ的に無理だという点はどうするのか。
 - ・昨年度、宿泊施設の関係で参加費を上げたら、人数が集まりにくくなった。参加希望の生徒が経済的なことで不参加にならないよう、少しでも料金を下げること考えた。
- ▶ GSSSSの参加は、先着順という形か。
 - ・書類選考という形をとっている。
- ▶ GSSSSの一部の特別講義でもネットでライブ配信すれば、多くの人に魅力が伝わる。60名しか参加できないのは、もったいなくないか。
 - ・初日と最終日の特別講義は、一般の方も入室できる。中学生の宿泊は60名までとなるが、講義を受けるのは、聴講という形で参加している。
- ▶ GSSSSは中津川の事業であるので、「岐阜・中津川サマー・サイエンス・スクール」でよくないか。
 - ・市費以外にも大垣のソフトピアジャパンから補助をもらっている。また、参加者の半分は市外の生徒で、関西・関東に及ぶ。全国の科学に興味のある生徒に発信することで「岐阜」を使っている。

◆良いところ

- ▶ GSSSSは25年、命の教育は1.3年。ある程度長いスパンをもって、子ども達は育っていくことを考えると、継続してくれてありがたく思う。
- ▶ 生徒会サミットは、他校の生徒会と交流ができる新たな取り組みであって、非常に満足度が高いと思う。
- ▶ すご技プロジェクトは、中学校へも拡大し、市内の企業について意外と知らないもので、ドローンを使った測量を実践していただき、非常に良かったと思っている。
- ▶ 子ども達が命の教育や保健の授業で、自分がどうやって生まれてきたかを学び、ある日突然、母親に「生んでくれて、ありがとう」と言ったときは、こういう活動の意味が分かり、伝わったと感じた。是非、継続して行ってほしい。

◆課題、問題点

- ▶ 大変すばらしい事業ばかりだが、新しい事業が増えてくると、学校や生徒の負担はどうかと考える。このような事業は継続していいと思うが、実際のところ、負担はないのか。夏休みを使えばいいと思うが。

- ▶ 今年度の生徒会サミットでは、事前の準備にかかる生徒の負担が軽くなった。満足度は10%以上増えている。スリム化して充実感を高めるのが、どの事業でも大事と感じる。

◆意見

- ▶ GSSSSは、地元の子ども達に一番恩恵のあるものであってほしい。有名な先生方の価値ある講義なので、学校でも聴講できるようライブ配信して、なるべく広く中津川の中学生に体験できるようになるといい。
- ▶ 25年続くGSSSSの名称を変えるのは大変かと思う。別のピーアール方法を考えて、毎年、中津川市で行っている事業ということを、広く伝えていけたらいいと思う。
- ▶ すご技中津川プロジェクトは、将来、中津川を担う人材の育成が目的でスタートしている。実施した児童・生徒が事後どう変わったかで事業が評価される。「広報なかつがわ」の今月号かに、高校卒業後、地元企業に就職した生徒の割合は2割をちょっと切るとあった。この事業を実施した子ども達が高校生になったとき、その割合がぐっと増えていたら、確かな成果であり、それが狙いだと思う。少子化が進む中で、職場体験をきちんと位置づけ、中津川を担う人材をいかに育てていくかが非常に大事な課題である。

最終評価

方向性の判断	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> <p style="font-size: 24px; margin: 0;">継続</p> </div>	<p style="font-size: 24px; margin: 0;">廃止</p>

いずれかに○をつける

【評 価】

方向性の判断の理由

- ▶ どの事業も中津川市の特色ある教育の姿を表現できている。また、教育委員会以外の諸機関の協力を得て成り立っている。今後も協力を得ながら継続してほしい。
- ▶ 生徒会サミットは、市内の全中学校が一所に集る意見交流会であって、他市にはなく非常に大事な事業である。
- ▶ すご技プロジェクトは、子どもにとって良い面のみならず、企業にとっても自社の技術を見てもらい励みになっている。元々は製造業から始まったが、他の業界にも知られていない技術もあるので、多様な業種へと広まってほしい。
- ▶ GSSSSは、長く継続していると同じように開催する条件を満たせないことも出てくるが、子どもたちのために将来に向けて持続していくべき事業である。

コメント

- ▶ 生徒会サミット終了後、サミットの定義からすると、話し合われた課題や出された結論を各学校へ持ち帰って、具体的に活かせる形態になるといい。
- ▶ GSSSの特別講義への一般参加が少なく感じる。科学の基本についてネット配信すれば、興味をもった人が来場してくれるかもしれない。
- ▶ GSSSの会場のキャパ数が減っても、偉い講師の話を聴けるまたとない機会なので、市内のより多くの子どもたちに優先して聴かせてあげたい。市が誇れる事業である。現講師に若い講師を紹介してもらおうなどして、元の日数で開催できたらいい。
- ▶ GSSSの日数が1日減り、運営側の負担が軽減されることで、より充実したGSSSになる可能性を感じる。

事業名	保育士等確保対策事業	担当課	幼児教育課
-----	------------	-----	-------

概要説明

この事業は

・子どもが生涯にわたる人間形成にとって極めて重要な乳・幼児期に、最も良く生き、望ましい未来を作り出す力の基礎を培い、また、その幼児教育・保育を必要とするすべてのニーズに応えること

を目的とし

・近年、子育て世代の女性の有業率が上昇し、保育ニーズが増大する中で、保育に関する求人数は増加傾向にあること

・少子化により、子どもの数は減少傾向にあるものの、3歳未満児を中心とした保育ニーズの増大により、現在、待機児童はゼロであるものの、潜在待機児童は依然発生している状況にあること

・令和元年10月からスタートする「幼児教育・保育の無償化」により保育ニーズが増加する懸念があること

を踏まえ、安定した幼児教育・保育の提供体制を整えるため、

<支援金関係>

- 保育士等修学支援金制度（平成29年度～）
月額3万円 無利子 最長2年間 市内保育所等に5年間勤務で返還免除
- 私立幼稚園教諭復職等支援金制度（平成29年度～）
園ごとに年額20万円を上限
免許取得後1年を経過しており、かつ1年以上離職している者が私立幼稚園に週20時間以上かつ2年以上従事した場合、その必要経費に対して園に支出

<採用試験関係>（平成31年度～）

- 受験資格の緩和策として「年齢要件を撤廃」
- 受験資格の緩和策として資格、免許を得ているため「専門試験を廃止」
- 4月の定期採用に加え、有資格者を対象として「随時募集」を開始

<その他>

- 高校訪問
- 大学訪問
- 大学生を対象とした保育体験アルバイト
- 高校生保育体験バスツアー

計画で進めました。

令和元年度は

・実績

【できたこと】

<支援金関係>

▶ 保育士等修学支援金制度

10名の募集を行い、8名の応募があり決定した。

(中津5名、坂下2名、中津商1名)

<採用試験関係>

▶ 定期採用において20名の応募があり、結果として14名を採用、随時募集においても11名程度の応募がある。

<その他>

▶ 高校訪問

市内4校(中津高校、中津商業、坂下高校、阿木高校)~を訪問等行い、中津川市の幼児教育・保育の方針「よりよいひとりだち」に向けた考え方と、修学支援金の説明を行った。

▶ 大学訪問

近隣5校(名古屋短大、桜花学園、中部、東海学園、中京学院)を訪問等行い、採用情報に加え、中津川市の魅力や園の特色などの説明を行った。

平成31年4月採用者7名のうち、大学訪問を行った大学からの就職は4名。

▶ 大学生を対象とした保育体験アルバイト

中京学院大学1年生の14名を雇用し、公立・私立を含めて市内15の園に派遣しました。

▶ 高校生保育体験バスツアー

岐阜県保育士・保育所支援センターと協議し、市内高等学校(中津7名、坂下14名)の生徒21名が参加、市内保育所1園(坂本さくら保育園)で保育の仕事を体験してもらいました。

【できなかったこと】

▶ 特になし。

という結果になりました。

一次評価(担当者による自己評価)

◆良かったこと(成果)

- ・修学支援金は、10名の募集に対し8名の応募であったが、将来の保育士確保に向け安定して活用されている。
- ・採用試験では、各種緩和策により受験機会が増えたことから受験者が増加し、より多くの人材を確保することができた。
- ・「大学生を対象とした保育体験アルバイト」では、学生と直接面接を行いながら、保育士になることへの意欲や悩みを聞くなど、頻繁に大学の学生支援部に通い、学生支援部職員や指導教官との面談を行う中で、大学とのパイプを作ることができた。
- ・大学訪問において、自信のなさから保育士になることを諦めかけていた学生の悩みを聴き取り、丁寧な話し合いの結果、常雇保育士としての採用につながった。
- ・「高校生保育体験バスツアー」では、参加した21名の高校生のうち、1.8名が将来保育士になりたいと思った、と実施したアンケートにおいて回答している。

◆課題・問題

- ・修学支援金は市職員の確保にはつながっているものの、法人園への就職は実績が少なく全市として公立・法人問わず、保育士が確保できる方法の検討が必要である。
- ・岐阜県保育士確保連携会議を通じ、保育士は学生生活後、ほぼ地元に戻る傾向にあることがわかり、職業選択の機会となる中高生を対象とした対策の必要性を感じた。
- ・公立、法人を問わず、中津川市の各保育所の目指す保育などを同じサイト内で閲覧できるプラットフォームが必要。学生はホームページではなく、スマホの世界。スマホで。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・事業全体としては、これまでの取り組みが徐々にその成果が上がってきていること、そして、今後は“採用”だけでなく、多くの観点から保育士確保を考えていきたい。
- ・市として子どもたちのため、安定した幼児教育・保育の提供体制を築くには、未満児保育の受入れを中心として法人園の協力なくしては成しえない。
- ・行政としては、保育士確保は公立ばかりでなく、中津川市全体として保育士確保に努めていくことが重要である。
- ・適切な保育が維持できるよう、定期的な職員採用は必要であるが、幼児教育・保育施設の適正配置を積極的に進めることも含め、安定した幼児教育・保育に努めたい。

評価委員会審議内容

◆事業についての質問

- ▶ 高校訪問で、中津川工業高校へは行ってないのか。女子の生徒も増えている。保育士を目指す生徒もいるかもしれない。
- ・高校生の保育体験ツアーを企画し、中津川工業へも声掛けしたが、希望者がいなかった。保育士の専攻課程へ進む学科のある坂下高校とは温度差がある。なお、中津川工業高校へは電話での問い合わせにより訪問に変えさせていただいている。
- ▶ 高校生保育体験バスツアー先の園は、坂本さくら保育園だけか。
- ・毎年、こちらで一園を選んで依頼している。昨年度は、別の法人園であり、来年度は、また別の園へ協力依頼する予定である。
- ▶ 確かに男性の保育士希望は多いが、家庭を持って育児をしていく中で、待遇の面が大丈夫か心配である。実際、長続きしているのか。
- ・賃金が問題になっているが、初任給は低くはない。待遇は一般行政職職員と同程度の待遇だが、仕事の厳しさを考えると待遇改善が重要と考える。男性の職員も活躍しているので、イメージアップを図り、保育士の雇用につなげていきたい。
- ▶ 人生で初めての先生との出会いであり、将来の社会に対するイメージさえも変えてしまう可能性がある。本当に重要な仕事だと思う。雇用の確保も大事だが、命の授業などにつなげるには、どのように資質を向上していくのか。
- ・資格はあっても高い理想がハードルになって保育士にならない方が多い。まずは採用して、経験豊かな園長を中心に皆で支えて、一人前の保育士に育てていくことを目標としている。
- ▶ アピールポイントの「多くの観点から保育士確保を考える」の「多くの観点」とは、何を指しているのか。

- ・現状、正規の保育士だけでなく、非正規の保育士がとても多い。この経験豊かな保育士が他所へ行かないようにするため、非正規職員をより多く正規職員として迎え入れ、保育士を確保することを目指している。
また、私立園の保育士応募者が少なく、市全体で未満児の受け入れ態勢の枠を広げないと待機児童の問題に対処できないため、市内私立園の保育士確保も重要と考えます。

◆良いところ

- 支援金制度は、5年勤務となればそのまま中津川市で勤務してもらえるいい制度だと思う。
- 保育体験のアルバイトに、保育士を目指す男子学生にも参加してもらっていて同様に評価できる。
- 中学生から進学先を考慮し、アピールしていることは非常に計画性があっていい。生徒は最初に体験したことが印象に残り、志望の動機が高まる傾向がある。
- 体験したことが夢につながることもある。中学生では職場体験学習があり、保育・家庭科の授業に必ず実習を位置づけている。希望により在学中に2、3回は保育園へ出向き園児と触れ合う機会を持つ。高校・大学でも園児とつながることで、地元に戻ってくる率が高まり、人材確保もできると思う。

◆課題、問題点

- 中京学院大の保育科に1年生で工業高校出身の男子がいて、本当に子どもが好きで一生懸命やっているが、工業高校の中では手を挙げづらい雰囲気があるかもしれない。
- キャリア面談を行うと、格差社会ということで、保育士になりたいが進学できない生徒も多いことがわかる。
- 保育士は、園児にとって、人生で初めての先生との出会いとなり、将来の社会に対するイメージさえも変えてしまう可能性がある、本当に重要な仕事だと思う。雇用の確保も大事だが、命の授業につながるには、どのように資質を向上していくのか気になる。

◆意見

- 近年、公立の園へ人材が流れていって、私立の園は本当に困っているという話を聞いた。公立の待遇はよいが、私立では旧来の基準のままのところもあり、待遇改善の努力が必要だと思う。このことは、課題として認識され、検討もされていると思うが、中津川市全体として、どうあるべきかということも、是非検討してもらいたいと思う。

最終評価

方向性の判断	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 60px; height: 60px; margin: 0 auto; display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> 継続 </div>	廃止

いずれかに○をつける

【評 価】

方向性の判断の理由

➤ 評価委員会が、現状を考慮し出された具体的かつ建設的な意見に付加なく同意する。

コメント

➤ 知り合いで不登校だった子がいたが、ついこの前、市内の保育園で保育士として立派に働くその子と再会した。市の支援制度を活用して学校に入り、資格を取得し採用されたと非常に喜んでいた。

事業名	苗木城跡整備事業	担当課	文化振興課
-----	----------	-----	-------

概要説明

この事業は

- ・城内の調査を行い、苗木城跡の歴史的・文化的な特徴を洗い出し、その保存を進めること（保存管理）。
- ・昭和56年4月22日の国史跡指定を踏まえ、史跡内の経年により傷んだ石垣等を修復し、後世へ守り遺すこと（整備活用）。
- ・中津川市の宝として愛郷心を持ってもらえるようにすること。
- ・広い範囲で多くの人に知ってもらうこと。

を目的とし

「苗木城跡保存管理計画書」及び「苗木城跡整備基本構想」に基づき、昭和59年度から令和5年度まで（予定）、石垣、道、看板等の修復、史跡内の遺構調査や整備を行う。
 総事業費 約6.5億円

- ① 三の丸跡修復石垣工事
- ② 大手口道地形測量

計画で進めました。

令和元年度は

- ・実績
 - 【できたこと】
 - ① 三の丸跡石垣修復工事（撤去：57㎡、積上げ・修復：計46㎡）・・・昨年度作成した立面図を利用し、石垣修復工事を行った。具体的には、石垣を撤去し、立面図に合わせ同様に積上げ・修復を行った。経費：17,538千円
 - ② 大手口道地形測量（3.3ha）・・・令和2年度の修復箇所である大手口道の地形測量図を作成した。経費：2,420千円
- ※それぞれ国庫補助事業（50%）を活用

という結果になりました。

一次評価（担当者による自己評価）

◆良かったこと（成果）

- ・石垣の修復や遺構の整備が進むことで、文化財の価値を保ちながら健全な姿で、中津川市の宝として後世に遺し伝えることができるだけでなく、見学者に対しても、苗木城がどういった城であったかが理解しやすくなる。
 - ・雑木伐採など景観整備が進むにつれ、その姿がテレビや雑誌などのメディアで紹介される機会が増え、さらなる見学者の増加につながっている。
- ※H27年 44,614人、H28年 46,653人、H29年 76,902人、H30年 87,760人、R1年 150,792人

◆課題・問題

- ・文化財の修理や整備は、文化財の価値を保ちながら実施することから、多額の経費がかかるため、国補助金に頼るところが大きい。近年、全国的に災害による文化財の被害が多く、国の予算がそちらに回ってしまうため、補助金の減額（事業費の減額）が通知され、今後の計画変更や事業期間の延長が懸念される。
- ・見学者の増加により、通路の土砂流出や草地の後退、見学通路以外の通行など、史跡の損傷につながる事態が発生している。

◆今後どうしたいか

- ・修理箇所や内容の再検討を行い、整備の優先順位を決めていく。
- ・立入禁止区域の表示や見学マナーの順守など、注意喚起を促す。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・天然の巨岩の上に多種類の石垣がそのままの姿で残り、天守からの眺望のすばらしさの魅力をもつ苗木城は、清水寺にも用いられた工法「懸造（かけづくり）」を利用して築かれた山城であり、現在は城跡ではあるが石垣や岩に削られた柱跡等、往時の面影を伝える遺構が多く遺っている。これらを市民が誇れる共有財産として後世へ遺し伝えるため、本事業を継続実施している。
- ・リニア中央新幹線の開通に向け、「訪ねてよし」、「住んでよし」のまちづくりを進めるなかで、市民が地域の文化資源に関心を持つとともに愛郷心を育むことができる。

評価委員会審議内容

◆事業についての質問

- ▶ 「愛郷心を持ってもらえる」という目的は、どのようにして達成していくのか。
- ・全国的にも珍しい城のあることは、ふるさとを愛する要因になる。そのために今の形を壊さないよう整備していく。
- ▶ 保持には費用がかかるが、なにか還元してもらう方策はあるか。
- ・地元から入場料を徴収してはという声がある。他市の事例を参考に徴収方法・場所などを検討していく。
- ・今も苗木まちづくり協議会の方で駐車場に、協力金という形で入れてもらう箱を設置している。
- ▶ 整備事業は国の補助がないと、文化庁は許可しないのか。全額を市費で賄うことは可能か。
- ・市費だけで整備できれば、必ずしも補助金を使わなくてもいい。
- ▶ 大手口道の地形測量は、そこから登れる道を作るために行うのか。
- ・元々、道はあるが、雨水などで階段の石が露出しているのので、整備する工事のため測量する。

◆良いところ

- ▶ 木を切ったことで、石がよく見えるようになり、集客力のある城となった。
- ▶ 展望台もしっかり整備されており、観光客が増えたことは大変ありがたく思う。
- ▶ 見学者の急増には、全国ネットで紹介された影響が大きい。顔見知り案内役だと親近感が沸く。

◆課題、問題点

- ▶ 苗木城が誰の居城だったか知らない人が結構多い。簡単な歴史・現状を説明し、整備の必要性を伝えることで、市民に城を守っていく意欲をもたせることも大事だと思う。
- ▶ 遠山史料館のトイレを借りるだけで、入館しない人がいるという話を聞いている。
- ▶ 木を切ったことで法面が崩れることや、観光客が正規の通路以外を通ることが起きている。対処費を協力金の名目で得ることを研究してほしい。
- ▶ 見学に大型バスを運行する旅行会社に対して、駐車料金の負担等を協議することは、受益者負担の原則からしても必要だと思う。
- ▶ 遠山史料館に展示されているCGで復元された城の画像などを、現場でも見れるスマホのアプリを開発できるといいと思う。

◆意見

- ▶ 見学者がこのように急激に増加している城は、全国でも数か所だと思う。それに伴い良い面、悪い面も発生していると思うが、地域のリソースとしてうまく活用してほしい。
- ▶ 文化財とみることも、観光資源とみることも大事である。その辺りのバランス感覚が市の中で必要と思う。
- ▶ 見学者には「石垣を見たい」という感覚が強いと思う。安全面を配慮し、石垣の工事見学など修復についてうまく活用できればと思う。

最終評価

方向性の判断	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block;"> 継続 </div>	廃止

いずれかに○をつける

【評価】

方向性の判断の理由

- ▶ 年々、観光客も含め来場者が増えてきている。今後もアピールのやり方によっては、益々増加できると期待できる。
- ▶ 中津川市をアピールする重要な拠点の一つとして捉えなければならない。
- ▶ 案内看板の設置や安全に行き来できる通路の整備を継続してほしい。

コメント

- ▶ 整備を進める一方で、来場者に楽しんでもらえることにも取り組んでほしい。

▶ スマホを城跡にかざすと、CGで復元した城本体が重なって見えるような、視覚的に楽しめるサービスを提供できたらいい。

事業名	子ども科学館事業	担当課	鉱物博物館
-----	----------	-----	-------

概要説明

この事業は

・気軽に立ち寄り、実験や体験を通して触れ合うことで、次世代を担う子どもたちの科学への興味・関心を育てること

を目的とし

- ①子どもたちの科学への興味・関心を高めるための常設展示の充実を図る。
- ②科学工作を中心とした月1回の土曜教室を開催する。
- ③季節に合わせた天体観測会の開催や1日6回のミニプラネタリウムの上映を行う。
- ④ミニ科学工作まつり等のイベントを開催する。
- ⑤幼稚園から中学校までの団体学習の受入れを行う。
- ⑥夏休み前に科学作品の相談を実施する。

計画で進めました。

令和元年度は

・実績

【できたこと】令和元年10月末まで

- ①リニア展示コーナーに加え、北恵那鉄道のジオラマの展示や末松安晴博士顕彰室の充実を行った。利用者数 12,047人 (H30.10末 10,651人)
- ②「光線銃と光の的をつくろう」など、各種の土曜教室を8回開催し、参加者は90人でした (残り5教室60人予定)。
- ③星を観る会を3回開催し、参加者は80人で、ミニプラネタリウムを109回上映し、鑑賞者は2,862人でした (星を観る会残り1回70人予定)。
- ④8月11日(祝)にミニ工作まつりを入館無料デーとして開催し、各種工作コーナーや太陽望遠鏡での太陽観察を行い、参加者は239人でした。
- ⑤幼稚園から中学校までの団体利用は、61件で1,744人でした。
- ⑥夏休み前に科学作品の相談を実施し、1件の相談でした。

【できなかったこと】

- ①夏休み前に科学作品の相談を実施をしたが、PR不足から相談が少なかった。

という結果になりました。

一次評価 (担当者による自己評価)

◆良かったこと (成果)

- ・最低限度の費用で、展示コーナーを充実したことにより、利用者が増加した。
- ・教室や星を観る会、ミニプラネタリウムの上映など、科学を学ぶ教室等が開催でき、

教室等の参加者も増加している。

- ・末松安晴博士の寄付と前教育長の大井先生のご指導により顕彰室のパネルや備品等の整備がほぼ完成した。

◆課題・問題

- ・施設の老朽化により、屋根の雨漏りがひどく、早急に修繕する必要がある。
- ・施設の修繕等に費用がかかるため、マスタープランで「統合・複合化」に分類されている。
- ・魅力ある展示コーナーの新設や教室等を増加させることが必要である。

◆今後どうしたいか

- ・屋根の雨漏りの修繕を行いたい。
- ・マスタープランでは「統合・複合化」となっており、施設の老朽化もあるので、複合化を考えて行きたい。
- ・今までどおり、費用を抑えながら新コーナーや新たな教室などを考え、利用者の増加を図りたい。

◆この事業のアピールポイント（評価してほしい点）

- ・土曜教室等の開催により、科学への興味を持つ子どもたちの参加が増えている。
- ・将来プラネタリウムの解説者になることを夢見ている中学1年生が、10数回来館者に説明している。このような生徒を育てる大切な施設にもなっている。
- ・末松安晴博士顕彰室の充実などにより、一般利用者も増加傾向になっている。
- ・イベントや土曜教室の開催時には、ボランティアとして教員のOBや工業高校など多くの方に支援を頂いている。

評価委員会審議内容

◆事業についての質問

- ▶ マスタープランとはなにか。統合化と複合化では、どう違うのか。
 - ・市の施設の現状を検証し、将来的な在り方を分類する計画である。統合化はA施設の機能をB施設へ移し、A施設を廃止すること。複合化は新たにC施設を建設し、A・B両施設の機能を集約して、この両施設を廃止すること。
- ▶ 来館者の中に、リピーターは多くないか。
 - ・年間パスポートを販売している。市内外を問わず購入者は、何度も来館している。
- ▶ プラネタリウムは、特にリピーターが多くないか。
 - ・プラネタリウムと星を観る会は、かなり固定のリピーターがいる。プラネタリウムを見て、星が好きになったという感想もあった。
- ▶ 「星を観る会」は、どこで、どのようなことを行うのか。
 - ・年3回は、子ども科学館の前で、講師が用意する望遠鏡で星を観る。1回は、ふたご座流星群の観える時期に、鉱物博物館の駐車場で開く。
- ▶ 館のホームページは、スマホでも閲覧可能の仕様になっているか。
 - ・可能である。

◆良いところ

- ▶ 中学一年生の女子生徒による来館者へのプラネタリウム解説は、将来、解説志望者の育成という点でもすごく良い。
- ▶ ボランティアがいろいろなイベントを企画し、開催を支援している。

◆課題、問題点

- ▶ 非常にすばらしい施設であることを知らない人が多く、本当にもったいない。もっとアピールしてほしい。
- ▶ 夏休み前の科学作品の相談件数が一件のみ。科学に関する相談や知識を得られる探究的な学習の拠点になっていくべき。
- ▶ 早期の屋根の修繕は難しい状況とのことだが、いろいろな事業をしている以上は、予算を確保してしっかり直してほしい。
- ▶ 統合化か複合化かの結論がはっきりしていない。その辺りも予算を確保して進めてもらいたい。

◆意見

- ▶ 面白い科学実験がブームで、テレビでも放送している。定期的に実験教室を、この分野に興味のある児童・生徒に呼びかけ、学校・地域と連携して、開催したらどうか。
- ▶ 利用者をたくさん増やし、必要な拠点であることを世間が認識するには、施設・イベントのアピールが足りない。
- ▶ スマホでの見え方や検索でどう引っ掛かってくるかが重要になってくる。ボランティアの協力を得てもいいので、毎日、SNSを更新するなど、まめな作業も必要と思う。
- ▶ 星を観る場所として、科学館は低地。定期的に例えば万岳荘などの高地で開催して、収益する手もある。一番大事なリソースは提供しているサービスなので、施設の外へ出て行く事業を中心にしていくと、統合・複合化となっても、サービスの魅力は継続していけると思う。
- ▶ リニア関連の大きな工事が各所で施工されている。リニア展示コーナーもあるので、トンネル工事の見学会やトンネルの掘り方の講座などを、科学館の主権で施工業者とうまくタイアップして開催できれば、他にはない面白い取り組みになると思う。

最終評価

方向性の判断	
<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; width: 80%; margin: 0 auto; padding: 10px; display: inline-block;"> 継続 </div>	廃止

いずれかに○をつける

【評 価】

方向性の判断の理由

➤ 評価委員会ですばらしい施設であるがゆえ、利活用促進のアピールについて、様々な意見が出されている。これらの実現に向けた工夫への取り組みに大いに期待したい。

コメント

➤ 科学館の主催で出前講座を行えば、科学に興味をもってもらえ、拠点施設の入館者の増にもつながる。

➤ 科学館では何を見られて、何を聞けて、どれほど充実した時間を過ごせるのか分かりにくい。

➤ マスタープランでの判断が、今後の方向性に影響する面もある。

➤ あまり人の目に触れない所も清掃・整理整頓を怠らないようにしてほしい。

過去に評価を受けた事業の現状（平成20年度～令和元年度）

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和元年度）の内容・実績
1	H30	1	学力向上支援事業 【学校教育課】	各学校の児童生徒や教職員の実態を把握し、支援・指導を行う。 【評価内容】 学校全体の落ち着きがこの事業の成果に上げられているが、卒業式を拝見してもその成果が感じられ感銘を受けた。岐阜県下で一番の手厚い人数配置がされ、子どもたちのケアができています。	継続	【内容】 ・学校と家庭の連携プログラムにより、生活習慣や学習習慣の向上は図り、早寝、早起き、テレビ、ネット等の関わりを毎年調査を行う。 ・学校規模・児童、生徒数、県費学校職員では足りない手厚い配置を実施。・学力アッププログラムにかかわるシート作成 【実績】 ・幼保小連携事業実施 ・指導助手30人、介助員8人、特別支援アシスタント59人、学校司書8人、英語指導助手3人の配置、35人相当学級指導助手1人
2	H30	2	公立保育所事業（田瀬保育園、下野保育園統合） 【幼児教育課】	田瀬・下野保育園を統合し、下野保育園での保育を行う。 【評価内容】 統合して活気が出て良かった等の意見がたくさんあり良い結果を得られている。	継続	統合により適正規模を確保し、活気のある保育ができています。 下野保育園統合（平成29年度）
3	H30	3	児童発達支援・保育所等訪問支援事業 【発達支援センター】	親子通所によりを基本に、個別指導やグループ指導による療育指導を行う。園生活の中で困り感のある児童に対し、保護者の同意を得たうえで、集団生活に適應できるための支援を行う。 【評価内容】 園の保育士と発達相談員との連携が上手になってきた。保護者に大変良い評価をいただいている事業である。	継続	幼児検診、発達相談により通所につなげ個々に合わせた支援指導を行った。 通所児童数（11月現在）つくしんぼ 144人 どんぐり 74人 専門療法士による発達段階に合わせた療育指導。 保護者支援のための学習会。 発達支援関係の連携、共通理解を深めるための職員研修の開催。 保育所等の集団での生活の課題を専門的にアドバイス。
4	H30	4	体育施設維持管理事業～ 弓道場の統廃合～ 【生涯学習スポーツ課】	市内の弓道場6施設を3施設に集約する。 【評価内容】 多くの体育施設、公民館等があり、今後も維持管理費削減のためマスタープランにより統廃合、地域移譲をすすめていかないといけない。	継続	令和元年度から市内の弓道場6施設が3施設に集約した。
5	H29	1	特色ある教育の推進 ～すこ技中津川 プロジェクト～ 【教育研修所】	行政・企業・学校が連携し市内全小学校で「すこ技企業見学」を実施。 【評価内容】 子どもたちにとって良い事業であるとともに、企業側にとっても「知ってもらおう」という意味では非常に良い事業である。働き甲斐の重要性やふるさと中津川の技術力を学ぶとともに産学官が連携し、小学校からのキャリア教育が進められている。	継続	【内容】 行政・企業・学校が連携し市内全小学校で「すこ技企業見学」を実施。 【実績】 ・児童・生徒を対象に市内協力企業14社で実施 9月25日～12月9日 市内全小学校19校5年生で実施 市内小学校8校6年生でモデル実施 市内中学校3校1年生でモデル実施 ・中津川市新規採用教諭を対象に市内協力企業4社で実施 1月21日（火）に実施
6	H29	2	放課後児童クラブ運営事業 【子育て政策室】	20カ所の放課後児童クラブへ委託費による運営支援と施設整備。 【評価内容】 今の時代において必要不可欠な事業である。29年度には指導員の処遇改善がされるとともに、課題であった横のつながりも代表者懇談会などで情報交換を行うなど取り組みが進んでいる。	継続	20カ所の放課後児童クラブへの委託費による運営支援を実施。令和元年度より神坂地区より落合学童への移送を開始（1名利用）
7	H29	3	B & G 海洋センター運営事業 【生涯学習スポーツ課】	スポーツ活動の拠点として活用。 財団の助成を活用した修繕の実施。 コミュニティー拠点とするための活用。 【評価内容】 地域のスポーツ活動やまちづくりの拠点としてだけでなく、近隣の学校も有効に利用している。 当面は継続するが、市民の理解が得られるよう運営や施設の活用面において研究や検討が必要である。	継続	地域のスポーツ活動やまちづくりの拠点として、計画的な修繕に取り組んでいる。今年度は福岡B & G 海洋センターで大規模改修を実施。
8	H29	4	小中学校への配本事業 【図書館】	学校要望に沿った図書資料の提供。 【評価内容】 十数年前では考えられないような学校との連携が進み、学校と図書館との距離がぐっと縮まる取り組みである。 年々利用が拡大し、子どもたちの幅広い情報収集につながっている。	継続	配本箇所は、中学校12/12校、小学校19/19校、幼稚園5/公6・私4園、保育園4/公15・私10園 ・配本冊数（貸出）は9,995冊 ※数値は令和元年11月末現在

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和元年度）の内容・実績
9	H28	1	学校規模等適正化推進事業 【施設計画推進室】	地域協議会を設置し適正化に努める。 【評価内容】 次代を担う子どもたちのよりよい学校教育の環境づくりを目指している事業であり、力を入れる必要がある。 集団の中で生きていくための社会的な力を身につけるためには、学校規模等の改善が急務である。	継続	【新ふくおか小学校】 福岡地区：6月に統合準備委員会設置委員会開催 統合準備委員会だより 1回発行 部会開催：計5回 学校視察：濃南小学校（土岐市）、池田小学校（多治見市） 校名に関するアンケート実施 10月、12月 区長会で随時状況等説明 【田瀬小・下野小統合】 田瀬小・下野小統合調整会議 1回 登下校シミュレーション（交流授業にあわせて実施） 2回 閉校式打ち合わせ 3回（実行委員会・学校・市教委） その他：田瀬小・下野小引越業務委託、下野小学校門拡張 【神坂地区適正化】 適正化に関する懇談会 1回 （幼・小・中保護者15名参加）
10	H28	2	美術展開催事業 【文化振興課】	郷土の偉人の名（前田青柳・熊谷守一）を冠した全国公募展をそれぞれ3年に1回開催。 中津川市民展を毎年開催。 【評価内容】 学芸員の活躍が功を奏しており、学校への訪問等は良い観点である。 市民展については、小中学生の出品も取り入れ拡大を図ると良い。	継続	【第68回中津川市民展】 期 間：11/23～12/1 場 所：にぎわいプラザ5階 出 品：245（一般212・招待33） 校長会で小中学校向けの出前講座をPRし、今年度も各小中学校へ学芸員が出前講座を実施。
11	H28	3	読書推進ボランティア養成 【図書館】	養成講座の開催。 ボランティア等の活動支援。 【評価内容】 ボランティア団体が学校や図書館（室）等で活発に活動している。 「絆プラン」や「美術展開催事業」についても連携しながら進めることができる。	継続	今年度は、養成講座の内容等を見直し、図書館サポーター及びジュニアサポーターについては、従来の養成講座を開催せず、随時募集に変更した。また、読み聞かせ講座は、従来の養成講座の他に「出張読み聞かせ講座」という形で、要望に応じて職員が講師としてでかける出前講座を加えた。 ・読み聞かせ初心者向け講座 中央図書館 2回開催 15名受講 ・読み聞かせスキルアップ講座 中央図書館 2回開催 7名受講 ・図書館サポーター 新規 2名 図書修理、イベントのサポーター等 ・ジュニアサポーター 活動日 毎月第2土曜（5月から） 登録者数 12名
12	H28	4	絆プラン 【教育研修所】	朝読書の推進。 読み聞かせ・親子読書の実施。 学校図書館司書の配置。 図書貸し出し推進。 東農地区学校図書館賞審査参加推進。 【評価内容】 「読書による人づくり」としてH24から続けている。個人の温度差は感じるがやり続けることが大事であり、続けることによって見えてくるものがある。 読書は学習面だけでなく疑似体験ができる素晴らしいツールである。相手の立場に立って考える力を高めることにより、いじめ対策等につながる。 学校での朝読書は、落ち着いた学習のスタートがきれる効果や気持ちを集中させる効果などがある。 読書をする習慣をつくるのが大事である。	継続	【内容】 朝読書の推進。 読み聞かせ・親子読書の実施。 学校図書館司書の配置。 図書貸し出し推進。 東農地区学校図書館賞審査参加推進。 【実績】 学校司書9名 小学校平均貸出し冊数100.2冊 中学校平均貸出し冊数25.4冊 学校図書館教育賞参加校 平成30年度実績7校（総合優秀賞2校・優秀賞4校・奨励賞1校）
13	H27	1	学力を高める授業づくり 【教育研修所】	学力定着状況の分析。 授業方法の指導。 研究発表会の開催。 【評価内容】 よりよい授業づくりのための指導のポイント5項目は、指導項目がさらに明確になり、先生の授業力アップにつながる。先生の意識改革にもつながり、この取り組みをさらに充実し継続してほしい。	継続	【内容】 授業方法の指導。 研究発表会の開催。 【実績】 今年度も市内5校に研究課題委託校として研究発表会を行い、他校の参考となる工夫を示していただいた。
14	H27	2	一部保育園の民営化の推進 【幼児教育課】	小鳩保育園の民営化。 【評価内容】 今回初めて民営化ができるのでこれを元にして今後データを残し次につなげて市全体の保育の充実につながるよう継続してほしい。	継続	丁寧な引継ぎ保育を行い、スムーズな移行ができています。 こぼと保育園未満児保育実施（平成29年度～）未満児受入拡大（平成30年度～）令和元年4月1日利用定員 85人

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和元年度）の内容・実績
15	H27	3	地域活動のキーパーソンや コーディネーター等の人材 育成 【生涯学習スポーツ課】	県の人材育成事業を活用した講座の実施。 実践講座の実施。 【評価内容】 地域のコミュニティは子育てにとってもとて も大切なものである。既存組織の活用や、誰に 声をかけていくかが大事である。コミュニ ティの意識が希薄になってきており、目標、 着地点を明確にして継続してほしい。	継続	通番43に記入したことに加え、国の人材育成 事業を活用した「体験活動ボランティア活動 のコーディネーター養成研修会」を実施。
16	H27	4	博物館事業 【鉱物博物館】	博物館の特徴を生かした教室・講座等の開催。 利用者の学習支援。 【評価内容】 学校や事業所への出前授業、出前講座はこちら から出向くという点では、とても効果があると 思う。子どもたちに興味を持たせるきっかけに なり今後も継続してほしい。	継続	博物館5館の令和元年度（10月末現在）におけ る教室・講座等、講演会、団体学習支援の実 施状況は381件、11,039人。うち、出前事業は 36件、1,519人。
17	H26	1	学校給食施設整備計画策定 事業 【施設計画推進室】	平成27年度までに学校給食施設整備計画策定委 員会を開催し学校給食施設整備計画を策定す る。 【評価内容】 ひとつの選択として公設民営化も視野に入れ、 継続してできるだけ早い時期に計画を立てて進 めてほしい。	継続	学校規模等適正化事業へ移行。
18	H26	2	授業力を鍛える研修事業 【教育研修所】	教員のスキルアップを図るための研修の実施。 【評価内容】 よい授業をする教員は子どもにとって魅力があ り、そういう教員を見れば子どもが「教員にな りたい」と思う。教員がレベルアップしないと 子どもたちに反映されない。したがって教員の 学ぶ場を揃えることのないようにしてほしい。 研修を充実させるためには予算が必要である。 費用を抑えるのではなく、予算をもっと獲得で きるように工夫しながら継続してほしい。	継続	【内容】 教員のスキルアップを図るための研修の実 施。 【実績】 ※事業名変更 【現在：研修所事務事業】 教育実践講座（夜学）年間14回開催した。夏 休みには日中に臨時で6回開催した。
19	H26	3	生涯学習活動の推進 （サポーターポイント制度事業） 【生涯学習スポーツ課】	サポーター活動の推進。 ポイントの対象となる作業活動の選定・募集。 【評価内容】 ボランティアで何かやることは自己実現になる ものがあり、生涯学習として大事なこと。もっ と、やりがいを感じられ、たくさんの人に参加 してもらえる事業になるようにPRをして広 げ、ボランティア作業の内容も楽しいことやや りがいのあることを増やすなど、やり方を変え て継続してほしい。	継続	サポーター活動件数を増やす取り組みとし て、各地域への働きかけ、ポイントの対象と なる作業活動の選定・募集を継続実施。
20	H26	4	読書による人づくり 【図書館】	ブックスタート事業の実施。 図書館ジュニアサポーター養成講座の実施。 図書館ボランティア講座の実施。 中津川えほんジャンボリー事業の実施。 図書館まつりの開催。 「あなたへ贈る一冊」をテーマにはがきコン ケールの開催。 【評価内容】 図書館ボランティアの活動が素晴らしいが、伝 えていけることが肝心であるため、広く長く継 続してほしい。 ソフト面は充実してきたが、ハード面が追いつ いていないので、将来的にはハード面の充実も 視野に入れて継続してほしい。 図書館のいろんな利用方法が市民に理解されて きて「貸す」「借りる」だけでなく図書館の楽 しみ方が広がってきた。今関わっていない人を どう巻き込むかが課題だが、さらに輪を広げな がら取り組みを続けてほしい。	継続	「ブックスタート事業」は「絆スタート事 業」と名称変更し、月1～2回、3ヶ月健診へ司 書が出向き、絵本の紹介等を行った。 図書館サポーター養成講座は通番11のとど り、見直し、開催した。 図書館まつりや季節に応じたイベントを開催 し、親しみやすい図書館、読書の良さをPRし た。 えほんジャンボリーは実行委員会と共催で行 い、絵本の良さ、大切さを市内の方へ広め ることができた。
21	H26	1	個別学習支援事業 【学校教育課】	個別学習指導助手の配置。 【評価内容】 子どもたちの将来のためにはこの事業の人員配 置は大きな意味がある。相談面と学習面の2つの 支援ができる指導助手を確保することは困難な 状況があるため「相談にのれる人」と「学習を 教えられる人」というくりに分けて雇用する 等、個別学習支援指導助手を増やし一人でも多 く長期欠席している児童生徒を復帰させる取 組みを継続してほしい。	継続	【内容】 個別学習指導助手の配置。 【実績】 市内中学校4校に4人を配置。学校内の相談室 等で教室に入れない生徒や不登校傾向の生徒 への個別支援を実施。生徒の居場所が確保さ れ学習する環境を整える事により、卒業後の 進路を切り開いたり、教室復帰を目指してい る。

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和元年度）の内容・実績
22	H25	2	幼児教育推進事業 【幼児教育課】	<p>幼保小連携協議会の開催。 地域教育支援委員会の開催。 アプローチ・スタートカリキュラムの実施。 リーフレット「もうすぐ1年生」の作成・活用。</p> <p>【評価内容】 幼稚園、保育園、小学校と家庭が連携し学校生活を送るための必要なルールを教えることはもちろんのこと、よりよいひとりだちができる「生きぬく力」を育てることはとても重要なことで継続してほしい。 幼稚園、保育園は先生と保護者のつながりが強いが、小学校は先生と保護者のつながりが弱くなっていく傾向があるので、幼稚園・保育園の保護者と小学校の先生が懇談する場を設ける等、保護者の不安を取り除くことが大事である。</p>	継続	<p>スタートカリキュラム（小学1年生初期のカリキュラム）とアプローチカリキュラム（5歳児後半のカリキュラム）をつなぐ「ジョイントカリキュラム」（幼児教育と学校教育の接続を強調）の作成、活用。 幼保小連携協議会の確実な実施（年3回）。 リーフレット「もうすぐ1年生」の作成・配付（市内全小学校）。</p>
23	H25	3	子育てサポーター養成講座事業 【生涯学習スポーツ課】	<p>子育てサポーターリーダー養成講座、子育てサポーター養成講座基礎編の開催。</p> <p>【評価内容】 この事業は単にサポーターを育成するだけでなく、子育てに悩んでいる親が受講することにより子育ての不安、悩みを解消することができるもの。その受講生が同年代の子育て中の親へ助言をすることができるようになり、輪を広げながら親の安心感につないでいくために受講生を増やす工夫をしながら継続してほしい。</p>	継続	<p>※事業名変更 【現在：子育てマイスター養成講座事業】 県の子育てサポーター制度の廃止に伴い、子育てサポーター制度を、子育てマイスター制度に再構築し、中津川市独自事業として再スタートした（平成30年10月から令和元年9月までの受講生数：43人）。</p>
24	H25	4	苗木城跡保存整備事業 【文化振興課】	<p>二の丸的場跡石垣修復工事。</p> <p>【評価内容】 長期間取り組んでいる事業でずいぶん整備され変わってきた。「天空の城」みたいなキャッチコピーをつくり、まず市民に関心を持ってもらいたい。市民の誇りになるよう継続して整備してほしい。</p>	継続	<p>昨年度作成した三の丸跡石垣立面図を基に、石垣の修復工事を実施（～R2年度）。 大手口道復旧工事の資料となる、地形測量調査を実施。 また、内郭部東側の危険木及び雑木を伐採し、苗木城の特徴である巨岩を見せるようにした。</p>
25	H25	1	坂本地区教育施設総合整備検討事業 【施設計画推進室】	<p>坂本地区学校、幼稚園、保育園などの総合整備に向けて協議会を開催。</p> <p>【評価内容】 地域の意見を聞いているだけでは進まない。事業の状況を考えると、教育行政の主導が大切であり、専門的な立場から方向性を示していくように実施方法の見直しと改善を行いスピードをあげて進める必要がある。 リニア駅の近くに学校があるということ是不特定多数の人が出入りすることが可能であり環境的に良く思えない。現在の場所から移転することも視野に入れ、長期的観点から総合計画や都市計画でしっかり位置づけをして取組み、スピード感を持って進めていくことが必要である。</p>	継続	<p>【こども園整備事業】 （幼稚園・保育園一園化） ■今年度の進捗 平成31年 3月 建設工事着手 安全祈願祭 平成31年 4月 地元工事説明会 ■今後のスケジュール（予定） 令和 2年 2月 完成 令和 2年 3月 竣工式・内覧会 令和 2年 4月 開園 ■会議・打ち合わせの開催状況 坂本まち協関係説明 2回 総合教育会議等への説明 2回 工事打合せ 30回開催 保護者等説明会 月 【小学校建設事業】 ■今後の予定 令和2年度 設計着手 令和4年度 工事着手 令和6年度 運用開始 【学校給食調理場建設事業】 ■今後の予定 令和2年度 設計着手 令和4年度 工事着手 令和6年度 運用開始</p>
26	H25	2	学校施設長寿命化改修事業 【教育企画課】	<p>第一中学校大規模改修補強工事。 加子母中学校屋内運動場大規模改修補強工事。 蛭川中学校大規模改修工事。</p> <p>【評価内容】 大規模改修により学校が安全な場所になりきれいにもなったという成果が見られる。今後も現場の意見を聞いて進め、子どもたちが勉強しやすい環境づくりをしてほしい。 計画的な推進と同時に学校規模等適正化基本計画の進捗を見据えつつ、改築等の方法も模索する。</p>	廃止	<p>小学校同様、平成28年度を最後に老朽対策の大規模改修工事事業は凍結となっている。なお、福岡地区の小学校4校については、平成35年度の統合新築に向けて計画を進めている。</p>

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和元年度）の内容・実績
27	H25	3	のびのび学習支援指導助手 配置事業 【学校教育課】	指導助手の配置。 指導助手を対象とした研修会の開催。 【評価内容】 二人の先生に教えてもらえることで成績が上がったと子どもたちが感じることができており、必要な事業であることがわかる。縮小することなく拡大していくことが中津川の将来のためになると思う。大勢の手を掛けたり環境づくりをしたら、中津川市が言っている「たくましい子」「一人立ちのできる子」が育つかという疑問も残る。別の視点でも考える必要がある。多様なニーズに対応するため、指導助手の確保に努める。人の配置だけでなく、効果的な活用の在り方、人材確保について更なる努力を重ねていく。 事業の成果が継続されるように、雇用をしっかりと確保できる仕組みが必要である。	継続	【内容】 指導助手の配置。 指導助手を対象とした研修会の開催 【実績】 市内小中学校12校に12名を配置。 通常学級において、担任（教科担任）のサポートとして授業を補助している。授業を複数の教員で行うことによって、よりわかりやすく、楽しい授業づくりを行うことができていく。また、児童生徒の学習状況を的確につかむことがしやすく、支援が必要な児童生徒に対して個別に指導を行うことによって、力を伸ばすことができていく。
28	H25	4	ふるさと中津川学習事業 【教育研修所】	郷土学習のための資料作成し学校へ配布。 【評価内容】 中津川市のことを勉強するためにはなくてはならない教材となっている。 中津川市のことを知ってもらうために少しずつでも校正しながらより良いものを作ってほしい。 副読本、地図や歴史資料の見直し、差し替え、改訂は激しい社会の変化に即して実施し、事業の成果を継続させる必要がある。 文化と対応した資料の収集と効果的な提示に努めたい。	継続	【内容】 郷土学習のための資料作成し学校へ配布。 【実績】 副読本、地図や歴史資料の見直し、差し替え、改訂（すご技プロジェクトの紹介ページを追加）。 歴史資料を授業の中で効果的に活用するための指導案の作成。
29	H25	5	放課後児童健全育成事業 【子育て政策室】	放課後児童クラブの運営支援。 【評価内容】 共働きが増えていく状況の中、無くては困るしありがたい事業である。 ボランティア指導者をデータバンク化しておく、指導員の負担が減少すると思う。 老朽化が進んでいる施設については、改修を行うなど施設の充実を図る必要があり、拡大して欲しい事業である。 未設置校区にも需要はあると思われる。確かな需要の洗い出しを行い、どの子にも安全・安心な居場所を確保していく。 既設置地域も含めて、ニーズの変化も推測しつつ既存施設を含めた総合的な整備を検討する。 校舎改修等とも関連づけていく。	継続	※事業名変更 【現在：放課後児童クラブ運営事業】 通番6に記入
30	H25	6	郷土資料調査活用事業 【文化振興課】	地域の郷土資料・行政資料の調査とデジタル化。 【評価内容】 郷土の大切な資料を後世に残していく大事な事業なので、ホームページ等でアピールの仕方を工夫し、たくさんの人に知ってほしい。 少ない人数で作業を行っているので、ボランティアの活用を広め古文書が読める等の作業協力者を増員して作業を進めてほしい。 郷土資料の散逸を防ぐため調査の継続とデジタル化に努める。 後継者の育成、増員が必要。 資料収蔵施設の確保が必要。	継続	平成24年度から実施している地域の郷土資料・行政資料の調査は、川上、付知、山口が終了し、坂下、加子母、福岡、蛭川で継続している。 平成30年度より国庫補助事業で、遠山史料館に収蔵している遠山家伝来資料の調査事業を実施している。
31	H25	7	子ども金メダル事業 【生涯学習スポーツ課】	文化スポーツ活動で活躍する子どもたちに「中津川市子ども金メダル」を授与。 【評価内容】 選考基準が曖昧な部分があるので内容を精査する必要がある。 東京オリンピックも行われることとなり、金メダルの意味や価値等を子どもにしっかりと認識させ質を高めてほしいと思う。 選考基準を明確化する。授与の方法について検討する。 事業の周知も必要。	継続	子ども金メダルの授与式を毎年継続して実施している。市広報等を通じて、事業の周知に努めている。
32	H25	8	こころのプロジェクト事業 【生涯学習スポーツ課】	トップアスリートやOBの方を招き「夢の教室」を市内全小学5年生対象に実施。 【評価内容】 子どもたちに夢を持たせる良い事業である。 小学校5年生に固定して継続してほしい。 目的通りの成果が上がっている。中学生への拡大をどうするか試行の成果で評価をする。	継続	市内全小学校5年生を対象にJFAこころのプロジェクト夢の教室を平成23年度から毎年継続して実施している。

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和元年度）の内容・実績
33	H25	9	読書活動推進事業 【図書館】	ブックスタート事業の実施。 図書館ボランティア講座の実施。 中津川えほんジャンボリー事業の実施。 第1回はがきコンクールの開催。 図書館まつりの開催。 【評価内容】 ボランティアの方の活躍により読書活動が盛んになったと思う。 ボランティアの養成をどんどん行い、充実させてほしいと思う。 地域・幅広い年代の参画者を増やし更に充実させたい。 幼保小中の絆プランとつながりを作り、より効果を上げたい。	継続	通番20に記入
34	H25	10	地域図書室充実事業 【図書館】	公民館図書室の充実。 地域事務所に図書室を設置。 【評価内容】 ボランティアの養成をどんどん行い、地域の図書室を充実させてほしいと思う。 地域図書室の充実、その特色を生かすネットワーク化を進めるとともに、事業の周知をすすめ図書館（室）利用を活発にする。 地域図書室の活動を充実させるために最も大切な「人」という資源について、更に工夫を加える必要がある。	継続	週2回、公民館図書室、図書コーナーへ配本。 各公民館図書室まつり等イベント時の支援。 月1～2回、司書による巡回、業務補助及び指導。
35	H24	1	移動教育委員会事業 【教育企画課】	地域開催7回。テーマ：①読み聞かせ、読書活動について②学校規模適正化基本計画について 発達支援センター開催2回。 【評価内容】 教育委員と話せる貴重な機会なので継続したいが発言しにくい部分があり方法を変えてほしい。 合併して10年以上経ち別の方法や活性化を求める。 校区の組み合わせ、説明、委員の発言時間等検討し自由な意見を引き出す手法を研いでいく。 テーマについては学校・園代表が議論、意見集約ができるよう早く周知したい。	継続	地域開催6回。テーマ：学び、活かす市民～家庭教育で大切にしたいこと～ 「中津川の教育」についての説明とテーマについてグループ懇談を実施。 発達支援センター開催2回。
36	H24	2	学校規模等適正化推進事業 【施設計画推進室】	パブリックコメント活動の展開。 学校規模等適正化基本計画の完成。 【評価内容】 基本計画はできたが推進事業としては途中である。地域への説明の仕方等改善の必要がある。他市と比較すると進み方が遅く説明不足を感じる。「この規模の学校が必要なんだ」という具体的な案を教育委員会がもっと強く指針を出して進めていくことを求める。	継続	通番9に記入
37	H24	3	確かな学力推進事業 【学校教育課】	読書環境の充実。 「学力アッププログラム」の推進。 【評価内容】 中津川市全体で学力アッププログラムに取り組むことはとても良いこと。学力アッププログラムは継続し、司書は増員を求める。学力アッププログラムは学校によって差があるので調整を求める。 学力アッププログラムは子どもが多い家庭、親の仕事等環境に応じた多様な対応が必要である。	継続	【内容】 「学力アッププログラム」の推進。 ※事業名変更 【現在：学力向上支援事業】 今年度も全幼稚園、保育園、小・中学校の園児・児童生徒にプログラムシートを配付し、取り組みを行った。
38	H24	4	特別支援指導助手配置事業 【学校教育課】	特別支援指導助手の配置 【評価内容】 極めて重要な事業であり、手厚く取り組んでもらっている。指導助手の配置を希望する学校に対し、配置が100%ではないので増員を求める。	継続	【内容】 特別支援指導助手の配置 【実績】 市内小中学校12校に14名を配置。通常学級における特別に支援が必要な生徒の学習指導や生活支援に当たっている。大人数の集団の中では、力を伸ばせない児童生徒が個別の支援によって、それぞれに力を伸ばせるようになっていく。
39	H24	5	子ども自立援助事業 (適応指導教室) 【教育研修所】	適応指導教室における教育相談・登校支援。 教育相談に係る研修会の実施（年6回）。 【評価内容】 極めて重要な教室である。指導員の確保、増員を求める。 一人ひとりに応じ、きめ細かい指導が行われ、良い結果に結びついているが、指導員に対しても手厚い配慮が必要である。	継続	【内容】 適応指導教室における教育相談・登校支援。 教育相談に係る研修会の実施（年6回）。 【実績】 適応指導教室相談件数494件（平成30年実績） 通室希望者が増える中（通室者20人）で、着実に学校復帰ができた児童生徒数（復帰6人、回復2人）も増えている。 教育相談ネットワーク研修会（年4回）今年度から教育相談コーディネーターを中心に研修を進めた。

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和元年度）の内容・実績
40	H24	6	公立保育園耐震改修事業 【幼児教育課・教育企画課】	耐震化未実施の園への耐震補強・改修（蛭川・一色・坂本保育園）。 【評価内容】 計画通り進んでいる。 建物の耐震化だけでなく、危険箇所、非構造部材等の対策も早くできるように求める。	廃止	公立保育園の耐震化については完了している。保育園については老朽に対する大規模改修事業の国庫補助が無いため、老朽対策ができていないことが課題。
41	H24	7	芸能文化人づくり事業 【文化振興課】	地域伝統芸能文化活動支援。 芝居小屋等の利用・活用・保存整備。 【評価内容】 伝統を継承している団体の支援となっている。伝統芸能継承のために活動している団体に事業の周知を求める。 子どもの時から教える必要があるため、小学生に呼びかけを求める。 アピールして参加者を増やすことを求める。 子どもたちが一度の経験で終わらず、保存会に定着できるような魅力づくりと手助けが必要である。補助金に依存しない保存会活動の強化も課題である。	継続	本年度も伝統を継承している団体の活動支援を行った。 また、11/17日明治座で「岐阜県獅子芝居公演」を開催し、加子母獅子芝居保存会を含む県内6保存会が発表を行った。
42	H24	8	スポーツ団体・スポーツ事業等支援事業 【生涯学習スポーツ課】	スポーツ関係団体への助成。 全国大会の誘致。 指導者育成のための講演会・講習会に対する助成。 【評価内容】 スポーツを通して人とのつながりを持てる大切な事業である。 交付金だけを頼らず、自立させるよう導くことを求める。 企業を巻き込む等、手法を考えながら拡大していくことを求める。	継続	スポーツ団体や大会の支援を継続して実施。平成28年度からは企業の協賛金を募りながら、清流木曾川中津川リレーマラソンが開始され、今年度は第4回目が実施された。
43	H24	9	家庭教育支援事業 【生涯学習スポーツ課】	家庭教育専門講座の推進。 子育てサポーター養成講座の開講。 公民館の乳幼児学級の支援。 【評価内容】 今は核家族が増え、孤立する親を支援する必要がある。 より多くの人に家庭教育を勉強してもらうための手段の工夫を求める。 ITを活用し、ホームページで子育て相談等をすすめる。 事業内容を細かく分けて、一人ひとりにあった支援を求める。 子育てサポーターは子育て世代や女性だけでなく、祖父母の年代等幅広い受講者を取り入れていくのも重要である。	継続	家庭教育専門講座の推進としてBP講座、NP講座を実施。 子育てマイスター養成講座の開講。 全13公民館の乳幼児学級を継続支援。
44	H24	10	中津川市民国際交流事業 【生涯学習スポーツ課】	中学生及び一般スタッフの海外派遣研修。 【評価内容】 参加した中学生は一段とたくましくなり、誰もが「貴重な経験をした」と感想を残している。現在のままで十分な体験ができている。行き先はタイを続けてほしい。 学校内では結果報告がなされているが、良い事業なので市民への広報が必要である。	継続	中学生24人及び一般スタッフ14人のタイ王国への海外派遣研修を実施。
45	H23	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会12回、臨時会2回、協議会12回、審議件数等24件。 【評価内容】 審議事項はもとより、今後も報告・協議事項についても積極的に議論を行い施策の推進を図っていく。	継続	定例会12回、臨時会1回、協議会12回開催。
46	H23	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 地区懇談会での「学校規模等適正化」に関する意見交換等の実施。 市長等との懇談会の実施。 【評価内容】 懇談会等の内容を周知させる方法を検討し活動実態やその大切さを多くの方にとって頂くことができると良い。	継続	移動教育委員会事業、学校規模等適正化事業へ移行。
47	H23	3	遠距離通学事業 【教育企画課】	定期券支給（小学校44人中学校21人） 補助金支給（小学校35人中学校11人） 【評価内容】 学校環境の変化に合わせて適切に対応していく。	継続	定期券支給（小学校42人中学校9人） 補助金支給（小学校34人中学校7人）
48	H23	4	学校給食管理事業 【学校教育課】	学校給食の実施。 栄養職員・調理員研修の実施。 給食業務従事者の腸内細菌検査実施。 【評価内容】 より安全安心な給食提供のため、調理員研修の充実を図る必要がある。	継続	【内容・実績】 学校給食の実施。 栄養職員・調理員研修の実施。 給食業務従事者の腸内細菌検査実施。

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和元年度）の内容・実績
49	H23	5	中津川市教育史料調査事業 【教育研修所】	明治7年から昭和25年分まで学校日誌等を冊子として刊行。 「興風学校日誌」として改訂版発行。 【評価内容】 学校に多くの貴重な資料が保管されており、事業のあり方、従事する方々の充実等含め発展的に進めていただきたい。	継続	【内容】 明治7年から昭和25年分まで学校日誌等を冊子として刊行。 「興風学校日誌」として改訂版発行。 【実績】 資料のデジタル化を継続的に実施。
50	H23	6	児童館運営事業 【子育て政策室】	東・西児童館・児童センター・坂本ふれあい施設の指定管理者制度運営。 幼児の保護者向けセミナーの開催。 【評価内容】 指定管理者制度のもとで民間ノウハウを生かして運営されており良い結果がでている。経年の適切な評価を実施しながら継続を検討していく。	継続	児童館4館を指定管理制度により、学校法人恵峰学園が運営。三世代交流や幼児の保護者向けセミナーなどの独自事業を企画実施。
51	H23	7	子育て支援事業 (地域子育て支援拠点事業) 【子育て政策室】	利用者数(中津川9,364人、福岡3,329人、加子母2,234人、坂本7,048人) 交流の場の提供、子育て相談の実施。 各センターにおいて年齢別ひろば等を開催。 【評価内容】 福祉部門との連携強化を図りながら、相談しやすい環境づくりによりリピーターを増やす施策に努める。 社会的ニーズが増しており重要な事業。啓発活動にも力を入れ組織体制の強化にも取り組み事業の振興を図ってほしい。	継続	子育て支援センター(直営2か所、運営委託3か所)を運営。未設置地域では出張ひろばを開催。 センターの担い手となる団体を支援する子育て団体育成支援事業を3か所で実施。 「子育てなんでも相談窓口」において子育て親子のニーズに基づいた、情報提供、相談、専門機関への連絡調整など利用者支援の充実を図った。 子育て親子が集まる場へ出向く出張相談を開始。
52	H23	8	地域療育推進事業 【子育て政策室】	発達相談・検査1,124人。 訪問相談343人。 発達障がい理解促進講演会、研修会、相談会等の開催。 【評価内容】 福祉部門との連携を図りながら、臨床心理士等の専門職の確保に努める。 社会的ニーズが増しており重要な事業。啓発活動にも力を入れ組織体制の強化にも取り組み事業の振興を図ってほしい。	継続	※事業名変更 【現在：子ども相談・支援事業】 発達相談及び必要に応じた発達検査の実施。 早期発見や適切な支援を行うため、幼保・小中学校からの依頼により心理士による訪問指導を実施。 保育士を配置し、支援の必要な幼児への関わりについて助言指導を実施。 (令和元年度より幼児教育課にて対応)
53	H23	9	文化財保護調査活用事業 【文化振興課】	指定文化財289件の管理。 国指定苗木城整備事業については帯曲輪石垣修復整備。 【評価内容】 広域化した市の現状から担当部署の行動力と地域との連携が不可欠。県内外を問わず観光部門とも連携しながら積極的に広報する姿勢と、文化財等の歴史的重要性が周知される必要性を感じる。	継続	引き続き指定文化財289件の管理を実施。落合宿本陣小姓の間の柱・壁の修復工事を実施。落合宿本陣では、平成29年度より毎週日曜日、祝日及び予約のある日に、案内ボランティアによる公開を実施している。
54	H23	10	青少年健全育成事業 【生涯学習スポーツ課】	13支部3分会で青少年健全育成活動実施。 夜間パトロールや補導活動の実施。 青少年悩みごと相談実施。 【評価内容】 研修の充実をはかりスキルアップしていく必要性を感じる。 青少年悩みごと相談は相談件数が少ないようなので、相談の時間帯の変更等の検討も視野に入れ更なる充実を図ってほしい。	継続	13支部3分会で青少年健全育成活動実施。 夜間パトロールや補導活動を実施。 青少年健全育成大会において、活動発表と講演を実施。 青少年悩みごと相談については、制度の周知を図りながら実施した。
55	H22	1	教育委員会会議 【教育企画課】	定例会12回、臨時会2回、協議会12回、審議件数等41件。 【評価内容】 教育委員会の権限に属する事務については適切に管理・執行することができた。 協議会において積極的に議論を行い施策の推進を図ることができた。	継続	通番45に記入
56	H22	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 地区懇談会での「学校規模等適正化」に関する意見交換の実施。 市長との懇談会の実施。 【評価内容】 移動教育委員会は地区開催と発達支援センターの開催回数をそれぞれ1回ずつ増やし、より多くの保護者からの意見聴取に努めることができた。 学校規模等適正化については地区説明会を行い課題の検証に努めることができた。	継続	通番46に記入
57	H22	3	小学校施設営繕事業 【教育企画課】	坂本小学校特別教室増築工事。 苗木小学校身障者用施設改修工事。 坂下小学校屋内運動場便所改修工事。 【評価内容】 限られた予算の中で優先順位を決めて対応するとともに緊急的な修繕にも対応できたと評価する。 老朽化施設が多く、計画的な修繕を行っていくためには予算等の拡充が必要である。	継続	大規模改修工事事業が途中停止したことにより、年々緊急的に修繕を要す施設・案件が増えており、縮小の一方を辿る営繕事業費だけでは対応しきれなくなっているのが現状である。

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和元年度）の内容・実績
58	H22	4	中学校施設営繕事業 【教育企画課】	坂本中学校屋外便所新築工事。 苗木中学校管理棟屋上防水改修工事。 福岡中学校汚水専用ポンプ取替工事。 【評価内容】 限られた予算の中で優先順位を決めて対処するとともに緊急的な修繕にも対応できたと評価する。 老朽化施設が多く、計画的な修繕を行っていくためには予算等の拡充が必要である。	継続	大規模改修工事業が途中停止したことにより、年々緊急的に修繕を要す施設・案件が増えており、縮小の一方を辿る営繕事業費だけでは対応しきれなくなっているのが現状である。
59	H22	5	スクールバス運営事業 【教育企画課】	加子母・福岡・付知地区7台スクールバス運行。 坂下・川上スクールバス運行委託。 【評価内容】 義務教育の機会均等の確保と保護者の負担軽減を図ることができたと評価する。 学校規模適正化の方向性により手段を見直すことも必要である。	継続	加子母地区2台、付知地区1台、福岡地区3台スクールバス運行。 坂下（山口・川上）地区スクールバス運行委託。 加子母地区のスクールバスを老朽化のため更新。
60	H22	6	小学校管理費 【学校教育課・教育研修所】	命の教育、ふれあい交流科学探検、文化鑑賞、通級指導教室の実施。 【評価内容】 事業目的に沿った計画・実施がされているものと評価する。 豊かな心を育むための情操教育や命の教育等の取組は今後更に重要となる。 通級指導教室のニーズも増加しており充実した運営が求められる。	継続	【内容】 命の教育、ふれあい交流科学探検、通級指導教室の実施。 ※現在、いのちの教育の授業は学力向上支援事業へ 【実績】 幼稚園、保育園、小・中学校で年間複数回の命の教育の授業や活動を実施。夏に合同研修会を実施。秋に福岡小学校で実践授業を公開した。
61	H22	7	子ども自立援助事業 【教育研修所】	通級指導教室の自立支援（相談件数1493件）。 個別指導サポーター対象校3校各1名配置。 教育相談ネットワーク会議等の開催。 【評価内容】 子どもたちの心の不安の解消や健全な成長のために様々な取組が実施できていると評価する。 多様化する不登校事情に対応すべく各施設の機能強化を図っていく必要がある。 指導者、相談員の後継者不足が懸念されるため人材確保が急務である。	継続	【内容】 不登校傾向のある児童生徒の不登校未然防止、不当校児童生徒の学校復帰を目指すため、校内支援員等の配置や、通級指導教室において教育相談員を配置し支援を行う。 心理カウンセラーの配置、メンタルフレンド、個別相談アシスタントの派遣を行い、個々の状況に合わせた支援を行う。 【実績】 通級指導教室へ教育相談員の配置（かやの木教室4人、あけぼの教室3人）、個別相談アシスタント3人、心理カウンセラー1人配置、スクールカウンセラーの学校へ配置、問題を抱えた児童生徒の相談のためスクールソーシャルワーカー（1人）を配置
62	H22	8	公立幼稚園運営事業 【幼児教育課】	公立幼稚園（6園）の運営と維持管理。 適正化計画のPTA・地域住民への説明。 【評価内容】 規模等適正化の中で幼保一元化や私立への移行を含めて検討していくこととなり、将来的な方向性を示すことができたことと評価する。 国の幼保一体化等の推進政策を見据え、保護者等の理解を得ながら計画的に取組んでいく必要がある。	継続	公立幼稚園6園での幼児教育実施。 私立幼稚園と協力しながら、幼児教育を希望する児童を全て受け入れることができた。 学校規模等適正化基本計画に基づき、適正化計画を策定中。
63	H22	9	保育園大規模改修事業 【幼児教育課・教育企画課】	落合・小鳩保育園耐震改修。 坂下保育園給食室改修。 【評価内容】 2園舎の耐震改修を行うことができ園児の安心・安全について推進できたと評価する。 今後も施設の耐震化等は計画的な取組が必要である。	廃止	通番40に記入
64	H22	10	児童館運営事業 【子育て政策室】	東・西児童館・児童センター・坂本ふれあい施設の指定管理者制度運営。 乳幼児の保護者向けセミナーの開催。 【評価内容】 指定管理者制度による施設運営については、随時その運営状況を検証・評価していく必要がある。	継続	通番50に記入
65	H22	11	発達支援事業 【発達支援センター】	通所児262人（つくしんぼ150人、どんぐり112人） 医学療法士等による療育指導、保護者のための講演会や職員研修の実施。 【評価内容】 希望する全員の入所が可能になるよう指導員体制を拡充できたと評価する。 H21年度から総合事務所管内の5施設を「児童デイサービス事業所」として組織化（どんぐり）し、市の発達支援センターとして一体的に運営できるようになったと評価する。 個々のニーズに応えるきめ細やかな取組が求められており、各施設の機能強化と発達相談室・園・学校との連携強化を図っていく必要がある。	継続	平成30年度の点検評価対象事業 （教育委員会評価シートNo3）

通期	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和元年度）の内容・実績
	66	H21	1 教育委員会会議 【教育企画課】	定例会11回、協議会12回、審議件数等36件。 【評価内容】 教育に関し問題意識を持つ姿勢で臨むことができた。 慎重な審議と公正な会議運営ができた。 協議会では課題等に対する共通認識を持つための努力がなされた。	継続	通番45に記入
	67	H21	2 教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 校長会理事会との意見交換の実施。 小諸市視察の実施。 学校規模等適正化検討委員会への諮問。 【評価内容】 学校規模等適正化への取組に着手することができた。 学校規模等適正化への取組は今後より広くの意見を集約し、教育振興基本計画等により教育委員会の基本姿勢を明確に示していくことが必要である。	継続	通番46に記入
	68	H21	3 中学校教育振興事業 【教育企画課】	中学校授業のための教材備品の整備。 【評価内容】 各校の実情をヒアリング等により把握に努めるとともに、適切な予算執行ができたと評価する。 授業を直接的に支える事業として更に拡充していくことが必要である。	継続	学校からの要望について、計画的にヒアリングを実施し、把握をすることで適切な予算執行を行うことができた。
	69	H21	4 教員住宅維持管理事業 【教育企画課】	教員住宅の維持管理。 稼働率76%（入居60戸/全79戸） 【評価内容】 民間施設が利用できる地域で不要と判断される施設について整理計画を策定し、改善に向けての道筋を付けることができたと評価する。	継続	教員住宅の維持管理。（管理戸数58戸、入居31戸）
	70	H21	5 中学校教育充実事業 【学校教育課】	中学校理科備品及び図書整備。 中学校就学支援。 【評価内容】 理科備品については、理科教育振興事業を活用し対象校の実情に応じた有効かつ効率的な整備がされたと評価する。 図書整備は学校毎の創意工夫により効率的に整備がされたと評価する。更に運用面を含めた充実に努めていくものとする。 就学支援については地域ネットワークの活用推進を図る。	継続	【内容・実績】 学校図書室図書の整備、充実 学校活動の充実と教育活動の推進
	71	H21	6 『ふるさと中津川』学習事業 【教育研修所】	社会科副読本及び関係指導資料等の作成（「ふるさと中津川」の改訂、「中津川市地図」の改訂）。 【評価内容】 「ふるさと中津川」「中津川市地図」については社会事象の変化を取り込んだ適切な内容に改訂されたと評価する。 使用する写真等については今後も随時改訂を行っていく必要がある。	継続	【内容・実績】 社会科副読本及び関係指導資料等の作成（「ふるさと中津川」の改訂、「中津川市地図」の改訂）。
	72	H21	7 公立幼稚園運営事業 【幼児教育課】	公立幼稚園（6園）の運営と維持管理。 【評価内容】 園児数の減少等の課題に対し、適正化検討委員会の答申をもとに今後の在り方についての計画を策定する必要がある。	継続	通番62に記入
	73	H21	8 私立幼稚園助成事業 【幼児教育課】	私立幼稚園（4園）への運営助成。 【評価内容】 年齢及び園児数に応じた助成により幼児教育の充実に寄与できたものと評価する。	継続	私立幼稚園4園への運営への助成により、幼児教育を受けやすい環境を整えることができた。
	74	H21	9 私立幼稚園就園奨励事業 【幼児教育課】	私立幼稚園保護者への助成事業（H20年度対象者480名） 【評価内容】 保護者の所得に応じた助成により保護者の経済的負担を軽減するとともに私立幼稚園の振興にもつながったものと評価する。	継続	保護者への財政支援により、幼児教育を受けやすい環境を整えることができた。 令和元年度対象者 342人
	75	H21	10 高等学校費 【阿木高等学校】	阿木高校の運営（在校生徒数4学年209名）。 【評価内容】 屋間定時制として他にはない特色ある運営がされていると評価する。	継続	阿木高校の運営（在校生徒数：5月1日現在、4学年117名）。
	76	H20	1 教育委員会会議 【教育企画課】	定例会11回、臨時会1回、協議会12回、審議件数等38件。 【評価内容】 教育に関し問題意識を持つ姿勢で臨むことができた。 慎重な審議と公正な会議運営ができた。 協議会では課題等に対する共通認識を持つための努力がなされた。	継続	通番45に記入

通番	年度	No	評価対象事業 担当課	評価当時の内容・実績 評価内容	現状	今年度（令和元年度）の内容・実績
77	H20	2	教育委員会調査活動 【教育企画課】	移動教育委員会開催。 青年会議所・広報会長会との意見交換の実施。 市内保育所・小中学校現地調査の実施。 【評価内容】 関係者からの意見を移動教育委員会により集約できた。 教育分野以外の団体との意見交換を教育懇談会の中で実施できた。 対象の輪をより一層拡大し教育施策へ反映すべく意見集約に努めて欲しい。	継続	通番46に記入
78	H20	3	奨学金貸付事業 【教育企画課】	大学生47人高校生15人への貸与。 制度改正（専修学校を貸与対象、遠距離通学高校生のための資格要件緩和）。 【評価内容】 貸与額、予算枠は県内トップレベルであり市民ニーズに応える制度であると高く評価する。 貸付対象の拡大等の制度改正を行い、利用者のための利便性を向上できたものと評価する。	継続	高校生2人、大学生34人、専修学校生7人へ新規貸与。
79	H20	4	小学校大規模改造補強事業 【教育企画課】	苗木小学校耐震化・大規模改修工事。 翌年度以降に耐震化する校舎等の計画と設計の委託。 【評価内容】 施工方法を見直し視界を妨げないかたちで校舎の耐震化を図ることができたことは高く評価できる。 校舎の耐震化を最優先させた実施計画は適切なものである。	廃止	校舎の耐震化については完了している。老朽化改善のための大規模改修工事については、平成28年度を最後に凍結となっている。
80	H20	5	教員住宅維持管理事業 【教育企画課】	教員住宅の維持管理。 稼働率84.8%（入居67戸/全79戸） 【評価内容】 老朽化等により利用されない教員住宅もあり非効率な面がある。 民間施設が利用できる地域で不要と判断される施設は取壊しの計画を策定する。	継続	通番69に記入
81	H20	6	中学校能力開発事業 【学校教育課】	ALT等講師派遣。 サマーサイエンススクールの実施。 部活動・情操教育への助成。 【評価内容】 ALT事業は本物の英語を学ぶ機会として評価できる。 サマーサイエンススクールは高い科学の体験学習ができる貴重な機会として評価できる。 それぞれの事業の手法にはなお改善の余地はある。 重点的に取り組むべき対象と方向性は妥当である。	廃止	【内容・実績】 ※サマーサイエンス事業への負担金として、中津川市未来を担う人材育成事業で継続中 ※ALT等講師派遣も、学力向上支援事業で継続中である。
82	H20	7	授業力を鍛える研修事業 【教育研修所】	年間89回の学校訪問指導、年間56回の研修会の実施。 教育実践論文集、研究紀要の発刊・配布。 【評価内容】 学校訪問と各種研修会は回数も多く精力的に実施されている。 教育実践論文等の発刊など広範囲な取組がされている。	継続	【内容】 教師の事業力向上に向けての取組 【実績】 年間90回以上の学校訪問、年間57回の研修会の実施。 教育実践論文等、研究紀要の発行・配布
83	H20	8	公立保育所運営事業 【幼児教育課】	公立保育園17園の運営と維持管理。 【評価内容】 運営と園児の受け入れは目標が達成されてきたものと評価できる。 少子化社会に相応した運営が必要であり、効率性、有効性において改善の余地がある。	継続	公立保育園15園での保育実施。 民間との協働のもと、受入体制を整え待機児童を0人とすることができた。
84	H20	9	法人保育所運営事業 【幼児教育課】	法人保育園6園への保育事業の委託。 【評価内容】 民間の特徴である機動力と柔軟性、効率性によりその運営も円滑に行われていると評価する。	継続	法人保育所6園、認定こども園2園、小規模保育事業所2園への保育の委託や財政的支援を実施。 民間との協働のもと、受入体制を整え待機児童
85	H20	10	放課後児童健全育成事業 【子育て政策室】	国庫補助対象の放課後児童クラブ13箇所への事業委託。 【評価内容】 現状の放課後児童クラブのニーズへの対応は十分ではないと考えられる。 施設の確保、指導者育成の面からの支援を拡充する必要がある。	継続	※事業名変更 【現在：放課後児童クラブ運営事業】 通番61に記入